回覧																			

あさひば だより 4月号

地域情報版

秋津　桜木　桜木東　若葉

※「あさひば」は、秋津まちづくりセンター管轄地域の愛称です。

熊本市配布文書17号
令和8年（2026年）3月15日発行
発行者：秋津まちづくりセンター・公民館
熊本市東区秋津3丁目15-1　電話368-2200
akitsumachizukuricenter@city.kumamoto.lg.jp

熊本市ホームページ

あさひばだよりは熊本市HPにも掲載しています

こども達の健やかな成長を　桜木校区青少年健全育成協議会

桜木校区青少協
会長　立川　康子さん

年間の活動内容

４月　**総会**

７月　**桜木のこどもをはぐくむ会**
学校・地域との情報共有

９月　**あいさつ運動**
自治協議会と協働で実施

１１月　**広報誌発行**
「明るい桜木」

１２月　**クリスマスふれあいのつどい**
桜木小門松づくり

その他、会議出席や、中学校のフラワーメールへの協力など

青少年健全育成協議会は、 青少年を支援するために集まった地域住民による団体です。桜木校区では、現在４名で活動しています。左記のような活動を実施しており、あいさつ運動は自治協議会と協力して、夏休み明けから９月いっぱい実施しています。「クリスマスふれあいのつどい」や「桜木小学校の門松づくり」など、地域とこども達が交流できるような活動を心がけて開催しています。

運営も課題

運営する役員が4名しかおらず、イベントの運営が難しいとのこと。こども達も習い事などで忙しく、イベントに参加してくれる人数も減っているそうです。
現在は、こども会や保護者会のサポートを得ながら活動をしているとのこと。

７月には、防犯パトロールも実施していたが、先生の参加が難しくなってきたり、役員の高齢化もあり、現在は休止。
主となる見回りは校区防犯協会にお願いし、いつでも協力できるようにしているとのことでした。門松づくりも指導者が高齢になってきているが、工夫して負担を減らすなどしながら対応しているそうです。

こども達の笑顔が原動力

活動をどうしようか悩んでいたけれど、イベントに参加したこども達の「楽しかった！」という声と笑顔を見たら、今後も頑張ろうと思えたと話す立川さん。「時代に沿った内容に変えつつ、自分たちでできるしこをやっていきます。」と笑顔でお話しいただきました。

温かい炊き出しも

桜木東校区
避難訓練

令和8年2月23日（月・祝）に、桜木東校区で避難訓練が開催されました。約150名の住民の方が参加。桜木東校区では、毎年2月23日を防災の日として訓練を実施されています。今回は、避難所に入る際の受付を、記名式（紙）・くまもとアプリ・マイナンバーの3種類で実施。アプリの受付をされた方は、「簡単にできた」とおっしゃっていました。会場である桜木東小学校には、救急法や手指消毒体験、消火器VRなど、防災体験ブースが設置され、参加された住民の方が体験していました。また、アルファ米や豚汁の炊き出しもあり、美味しい食事にホッとすることができました。
災害に備えるために、体験しておくこと・知っておくことは大事ですので、ぜひ地域の訓練などに参加してみてください。

10年 熊本地震

熊本地震の記憶を未来へ紡ぐ

どうにも言いようがない地震の恐ろしさ

熊本市　７０代 民生委員 男性

前震のとき、家を出るとすぐに知人の女性が「うちのお母さんが家におるはずだから、とにかく見て」と言ってきました。９０ 歳ぐらいのおばあさんが、みのこ造りの大きい家に一人で住んでいたのですが、地震後に駆け付けた娘さんが外から声をかけても反応がないと。だいたい家の中の間取りはわかっていたので、近くにいた人と２人で中を探しましたが、いらっしゃらなくて。「おかしかね～」と言いながら２階に上がろうとしたところ、外に近所の人がたくさん集まっていたので、「ここのおばあさん誰か知らんね？」と聞くと、「次男の人が連れて行きましたよ」と。「ああ、よかったね」と言って、みんな帰っていきました。
その後、本震の翌朝にその家の前を通ると、家がない。屋根の一番上から道路までぺっちゃんこになっていたんです。
言ってもわからんでしょ、あの怖さは。どうにも言いようがない。

本音を引き出せる日頃のつながりの大切さ

熊本市　５０代 小学校教諭 男性

他の先生方が、避難所の方々の声を聞いて、ニーズに合わせて色々なものを整えていったところが、自分は感動的でしたね。
それは、日頃、地域の方や保護者とのつながりがあったからできたのかなと思っていて。つながりがあるから、思い出話なんかも交えながら色々な話ができて、本音も引き出せた。それで、何が不自由かとか、何が必要なのかとかが掴めたんだろうなと思います。
今年は新型コロナウイルス感染症の影響で、保護者と顔を合わせて繋がることができていない状況ですけれど、こんな状況であの地震が起こったら、あの時と同じ避難所運営ができるかなというと疑問だと思うのですよね。
だからやはり、日頃からしっかり保護者と仲良くなっておくとか、どんな家庭環境なのかを把握しておくこととかが大事だなと思いました。

熊本地震の記録を未来に紡ぐエピソード集より抜粋

エピソード集は、熊本市東区の秋津校区にお住まいの方やお勤めの方にご協力いただき 、令和3年に秋津まちづくりセンターが作成したものです。